



Work life balance .....

## 会社が伸びる絶対条件は、 まず社員を感動させること

「社員がこの会社のために頑張ろうと思わなかったら、絶対に会社は伸びないと私は思っています。では社員たちにやる気を起こさせるにはどうしたらいいのか、これは一言でいえば社員が欲しいものを与えることです。社員が一番にはたくさん給料が欲しい。しかしこれはなかなか簡単ではない。そこで2番目に欲しいがる休みをたくさん与えることにしました」と山田相談役は語る。

未来工業が実施したのは日本一長い休みである。年末年始が20日間。ゴールデンウィークとお盆はそれぞれ10連

休。年間休日140日である。そのうえ残業禁止、育児休暇は3年。

「やる気というのは感動です。社員たちに感動させるということは、裏返していうと不満を持たせないということ。どれだけ社員たちの不満を消すかということが感動につながると私は思っています」

未来工業には作業服がない。今の若い人は作業服を着たがらないという理由で作業服をやめた。そして皆、自分の気に入った服を着て作業をしている。被服代も支給されるという。これも社員の不満を消すひとつの手である。山田相談役は、社員に対して日頃から次のように語っている。

「朝7時に家を出る、夜7時に家に帰る。それで12時間。8時間寝る時間を引いたら、人間は残り4時間しかない。それを会社のために残業するのは間違っています。8時間働かないと飯食えないから働くのは当たり前。だけど、あと残り4時間は自分のために使えよと。短い人生、飯を食うだけなら、家畜と一緒にやらないかと。しかし我々は人間なのだから、人間ならこの4時間を自分の時間として大事に使う、喜びに使う。そうやって人生を送っていけよと」

## 合言葉は「常に考える」

Work life balance .....

しかし年間140日も休んで、どのように儲けを出すのか。未来工業の儲けを支えているのは、6547件の産業財産権（特許出願1346件、実用新案出願540件、意匠出願4119件、商標出願542件。2007年11月末現在）である。これらを生んだ特徴的なしつけは、提案制度だろう。社員は思いついたアイデアを提案箱に入れると、封を切らずに500円が支給される。優れたアイデアには1万円、2万円、3万円という賞金もある。そのアイデアが製品開発や工場内にも活かされ、改善箇所にはシールも貼られている。

「会社が生き残るには差別化しかない。私は電機屋で、建築電気が専門です。昭和40年（1965年）、大垣市という岐阜県では2番目の人口15万人の町で、この会社を立ち上げました。立ち上げた時は、女2人、男2人の4人でした。一番びっくりしたのは競合の会社が皆、大きくて古いのです。電気の業界というのは、いわばナショナル、東芝、日立、三菱、大きくて古い会社がぞろぞろいるわけで